

第8回日本シニアテニス秋季全国大会に参加して

10月1日（火）～2日（水）にかけて宮崎県宮崎市の生目の杜運動公園にて全国から約200名の参加者が集い、大会が開催されました。

A～F（6組）男子11名、女子21名（32名編成）18面コートで熱戦がくり広げられました。

この大会の主旨でもあるかと思いますが、この出会い1.5日の中でチームの団結力を築き上げていく瞬間はすごいです。一試合ごとに会話もはずみ変化していくチーム、長きにわたりこの大会が築きあげて来た“ちから”を感じました。勝敗はもとより各個人を尊重し讃えあう姿にスポーツの持つ力を強くかんじ年相応のプレースタイルを持ち生き生きとテニスに向かう姿勢こそが長生きのひけつと感じました。

プレーを離れここ宮崎の地で感じましたことは、パームと言う背の高い木が国道沿いに植樹されています。南国ムード。かつては新婚旅行のメッカ、1960～1970年およそ10年間でピーク、1974年市内に宿泊した新婚旅行客は37万組。

全国大会はプレーはもとより、その土地にふれ、またその土地の歴史文化を知り得ることができるとなると。サンメッセ日南のモアイ像はイースタ島を見ている。ラパヌイ語のモアイには「モ」は未来、「アイ」が生きる、すなわち未来に生きるという意味。

次回の戦いの場に胸はずませ、新しいテニス仲間との交流を夢みて一緒に楽しみましょう。

山崎 朝子